評価基準「最適運用のための予測・計測及び表示（案）」の統合新設について

資料３

１　（現行基準）最適運用のための計量及びエネルギー管理システム　について

○目的（期待する効果）

- エネルギーの使われ方を把握して改善していくためには、各設備システムのエネルギー消費量の計量を行い、その結果を分析・評価することが必要
- しかし、適切な計量が行われていない建築物もある。
- 建築と設備システムの保全管理が適切に行われるよう誘導していくため、エネルギー計測システムやBAS、BEMSなど、計量及びエネルギー管理システムの導入を評価する。

○評価基準

段階	評価基準	
	個別熱源システム	中央熱源システム等
1	全体・エネルギー種別の把握	個別熱源システムの段階２同等
2	段階１+エネルギー用途別の把握	個別熱源システムの段階３同等（一部除く）
3	段階２+各用途の系統別のエネルギー消費量の計測かつテナント別に課金が可能なこと。	個別熱源システム施設の段階３に適合するとともに高度なＢＥＭＳを導入すること。

２　（現行基準）最適運用のための運転調整と性能の把握　について

○目的（期待する効果）

- 建築主が建築物に対して求める性能を明確にして、設計者はエネルギーの消費量を予測することが必要
- 建築物の運用段階においてエネルギー消費量を実測、チューニングを行い、予測値との比較検証することより、コミッショニングを行うことが重要
- そこで、約１年間のエネルギー消費量を予測したうえで、運用時にはチューニングを行いながら実測・検証することのできる体制を整え、次の目標設定につなげることを評価する。

○評価基準

段階	評価基準
2	想定している実際の運用によるエネルギー消費原単位と、その根拠の明示
3	段階２の記載内容に加え、以下について記載する。 ・エネルギー利用効率やその対象機器及び範囲 ・設備機器及び運転の調整に関する事項の概要

３　事務局の考え

- 計量、エネルギー管理、運転調整及び性能把握は、運用改善のための一連の取組である。このため２つの評価基準を統合し、「最適運用のための予測、計測及び表示」（案）とするのはどうか。

○目的（期待する効果）

- 運用時の省エネを図るには、予測を立て、計測・計量データの収集・分析を行ったうえで、各設備システムの制御及び運転方法を調整することが必要である。
- そこでエネルギー消費量等を予測、計測及び表示等ができる機能を有することを評価する。運用時にこれらの機能を使いながらコミッショニングを行うことで、省エネの取組につなげることを誘導していく。

○評価基準

段階	評価基準（案）　非住宅用途 （詳細は資料８-１０を参照）
1	段階２を満たさない。
2	エネルギーシミュレーション、エネルギーの計測及びエネルギーの管理システム・表示システムに係る事項の点数の合計が２以上
3	段階２の事項の点数の合計が４以上

（備考）

○　住宅用途ではＨＥＭＳの設置について、記載事項で取組状況を把握していく。